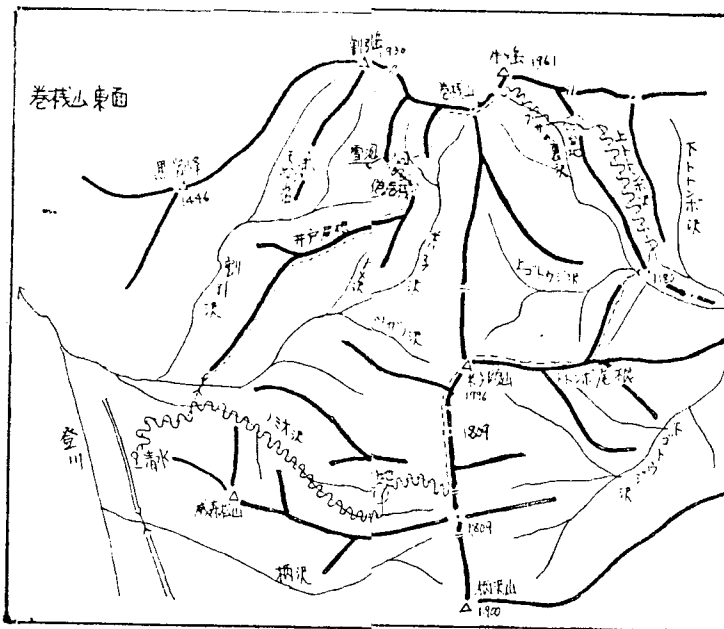


日本晴れ!

1982
3.21-23.

巻機山



②「志賀から野沢のコースがメンバーの都合でひっくり返り、スパーマン連合のこの山行にまぎれ込む。前日に入山していた長谷川さんと「うんてい」で合流神社の所でツールをつけ、厚い雲の下を進む。紅一点(認めぬ人も居るようだが...)のガンバリでついて行くが井戸尾根にさしかると早くも、一馬身の差がつく。つぼ足で登り出すと、これはもう... (ワウ) やつ井戸尾根をぬけひと息つくが今度は雨の中の登行。ゴアテックスの威力も大ウバの雨では体がびて来て気が滅入る。なぜかスキーをかついで降りるパーティーとちれ違ってニセ巻機山についた時は、気力・体力ゼロとなる。さすかのスパーマン連合もヒョクを越しての滑りは断念。雪洞をほって一夜のやじとする。(今野)

3/22

翌朝、目を覚ますと、入口が完全に雪で埋まってストックで突いても穴が通じないので若干アセル。スコップを振るって外にはい出ると、スキーにビッシリと、エビのシポが付いていた。7:50 本峰に向け出発。本峰と牛岳の谷からスキー-滑降開始。ブサウラ沢上部をトラバースして上トトボ沢に滑り込む。どこを見渡しても素晴らしい大斜面だらけである。止まるのが惜しくて大きなターンで飛ばす。1160mの台地状で標高差約800mは、入中々滑り応えがあった。今回のコースは、去年菅沼氏が計画してから、期待していたコースだったが、期待以上のナイスルートだ。ブサウラ沢や上ゴトウジ沢も良さそうで、来シーズンも又来たくなる所だ。ブナのあるトボ尾根に取付き米子頭山へ向う。稜線に出たからはフラットなのでアゼンとつけるが、ボコボコ踏み抜く感じで、やりにくい。米子頭山からは両側が急な雪稜状で、慎重に歩く。小さなピ-7を3つ越えたコルから稜線西側のミオ沢に滑り込む。出だしがアイスバーンで慎重に滑り出す。1400m台地手前から湿雪となり、左俣から右俣に入ると沢中も狭くなり、ブナの木も多くてポールに見立て滑り込むが、途中、小さな滝が出たり枝沢からかなり大きなブロック雪崩が出ていたりして、あまりのんびりしられない感じた。曲がりにくい湿雪の中を急いで滑り900mの所の広い河原に出てホッとす。こまづくればもう安心。あとは井戸尾根コースに合流し、清水まで林道とのんびり滑る。お決まりの曇天で山菜を7つきながらビールで乾杯。頼んだ77シーが遅れてしまい、これは六日町で温泉にと思ったが、16:20巻の電車が数分遅れてくれたので滑ベリこみセ-7で上野に何かつた。(記、小森宮)

メンバー：小菅沼、小森宮、長谷川、猿田、今野、坂井

820414

8

地図からの印象と寸分違わない「ガスロープ」でも表現できそうな大斜面が行手に広がっていた。メンバーにも恵まれ、スキーでは初めての巻機山で、即バリエーションルートを滑降できうれしかった。

ブサの裏沢、上トトボ沢、上ゴトウジ沢、下ゴトウジ沢等々見渡す限りの好スロープが存在しているので、残会を見つけ出かけた。

① : 清水 7:45 → 960m 9:05/15 → 1340m 10:20/35 → 1660m 11:25/35 → 巻機山 12:00 → 小屋下 12:15 (雪洞3h) // 8:00 → 巻機山 8:30 → 牛岳手前 8:35/50 → 1180m 9:25/10:00 → トトボ尾根 1650m 11:40/55 → 米子頭山 12:25/45 → ノミオ沢源頭コル 1780m 13:30/50 → 900m 14:35/55 → 清水 15:05

200075